

## ドローン活用へ研修

## 県シカ捕獲 有用性確認

県は24日、ドローンを活用した効果的な野生鳥獣捕獲に関する研修会を伊豆市役所別館で開いた。地元猟友会や県内外の行政、調査会社の関係者ら25人が参加。実証実験で成果を上げたドローンを生かしたニホンジカ捕獲法の有用性などを確認した。

県担当職員、ドローン専門業者らが調査や捕獲手法などについて説明した。夜行性のニホンジカは夜間になると餌を求めて森林内から出てくる習性があり、赤外線カメラ搭載のドローンを飛ばし生息状況を正確に把握。



ドローンを活用した効果的な野生鳥獣捕獲についての研修会＝伊豆市役所別館

データを地図上に示す形で、猟友会など捕獲動ができることを示し、効果的な捕獲活動が示された。

県は昨秋から今春まで伊東市岡、鎌田地区で実施した実証実験で、捕獲効率が県管理捕獲の平均と比較し約1・6倍に向上する結果を得ている。

伊豆市内の猟友会関係者は「捕獲従事者が減っているため、ドローンを使った効率的な調査や捕獲が必要不可欠」などと話した。佐々木裕之・県鳥獣捕獲管理室長は「きょうの研修を、今後の捕獲効率向上に役立ててほしい」と期待した。

同日は、土肥地区でドローンを使った生息状況調査の実演も行われた。